

## 飲食店経営者と農業者の青年団体の連携による地産地消の推進

### <北海道>

市町村・集落の名称	旭川市全域から集まる農業青年団体 旭川市農業青年の会 A 2
協働の相手（企業や大学等）の名称	旭川平和通買物公園青年部 A S（アズ） ～買物公園（駅前の歩行者天国）付近の飲食店経営者の青年団体。
仲介者・コーディネーターの名称	旭川市農政課職員
協働のポイント	農業者、飲食店経営者共に労働内容、労働時間帯等互いの行動パターンを理解し合うのに時間がかかった。 農業者の食材提供時期と調理者のメニュー考案のタイミングを合わせるのが難しかった。
協働のきっかけ・経緯	A 2 が例年開催している研修会の講師としてアズの部長と副部長を招聘し、地場農産物と飲食店経営との関わり方について講演してもらったこと。 その後、2年前から買物公園内の空き店舗跡地を利用して A S が中心で運営している「旭川屋」というアンテナショップ（ビアガーデン）内で提供する料理について、A 2 からの食材提供を求められ、関係がスタートした。
取組の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「旭川屋」というビアガーデン内で提供する料理の食材提供（米・野菜）</li> <li>買物公園内で行われる定期的なイベントでの出店（夏場に1回、新米収穫時に1回）</li> </ul>
農村地域への効果	商業者と関わることで、また市街中心部の住民と接することで、消費者のニーズ、生産だけでなく販売することの重要性や難しさ等を学ぶきっかけとなった。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	協働の結果「旭川屋」だけでなく、それに関わる青年部の経営する店にも食材が提供され、他店と差別化するために、地場農産物を望んでいたが仕入れ方がわからないという問題を少しずつ克服することとなった。
仲介者等の役割	連絡調整、広報活動等
今後の課題	今年度は協働1年目であり、お互いが求める内容に応えられない部分も多く、食材提供のスムーズさに欠ける部分もあった。来年度はさらに多くの食材をメニューに取り入れられるよう努める。 イベントや節目ごとの打ち合わせの回数増。
関連事業（国・都道府県等）	なし

(活動状況写真等)

## 秋の新米協同収穫祭の様子

